

近世日本山岳関係データベースの高精細画像ビューア新機能の紹介

徳 永 澄 子 （信州大学附属図書館）

1. 近世日本山岳関係データベースの概要

近世日本山岳関係データベース¹（以下、本データベース）（図1）とは、信州大学附属図書館中央図書館が所蔵する小谷コレクション²のうち江戸期以前の和古書、和地図を電子化・公開したものである。

本データベースの画像データは、信州大学附属図書館近世日本山岳関係データベース作成委員会が、平成22年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費<データベース> 課題番号：218039)の助成を受け作成、検索・表示のシステムは、信州大学工学部情報工学科小林一樹准教授・信州大学総合情報センター・信州大学附属図書館が共同で開発し、平成23年3月から公開をしている。公開当初から高精細画像ビューアは、Google Maps API を使用して開発した高精細画像ビューアを用いており、画像の拡大がスムーズに行え、かつ拡大後も高精細の画像が表示される特徴がある。



図1 近世日本山岳関係データベース

2. 新機能開発の目的と紹介

本データベースで公開している資料は、長野県内はもちろん日本近世の山岳関係、紀行、山岳信仰などの和古書・和古地図が広く含まれている。中には世界文化遺産に登録された富士山に纏わる紀行文、富士信仰に関する和古書・和古地図もあり、この分野を研究する学生・研究者のみならず、一般市民にも関心の高いテーマの一次資料群と考えられる。

附属図書館は理念・目標に知の提供(地域貢献)を掲げ、地域文化の振興のため、地域社会との連携を積極的に推進し、地域に根ざした図書館を目指している。そのひとつとして、学生・研究者のみならず一般市民にも本データベースがより活用されることを期待して新機能を開発することとした。現行のデータベースでは一次資料、二次資料を提供するが、多様な学習ニーズが混在する一般市民に対しては一次資料、二次資料の提供だけでは十分な情報を提供しているとは言い難く、十分に活用されているとは言えない。そこで利用者参加型のデジタルアーカイブの構築を通してデジタル化された資料と利用者を結ぶことを目的とした新機能を開発した。平成27年春にはサービス提供を開始する予定であり、先に紙面を借りて紹介する。

2-1. コメント機能

本データベースで公開している資料は、この分野を研究する学生・研究者のみならず、一般市民にも関心の高いテーマの一次資料群と考えられるが、和古書・和古地図の特性から誰もが容易に資料の内容を理解しがたいものでもある。そこで、画像にコメントを付与できる機能を用意することによって、研究者による解説を付与したり、専門家以外が気軽に質問したりできる環境を構築にするのが狙いである。ページ数の多い古書、古地図の特定の部分に関してコメントを記述できるように、画像のある座標に対してコメントを付与できる機能とした。具体的には、Facebook アカウントを持つ人であれば、誰でもコメントを付与できる。



図2 (富士山図)

2-2. 高精細画像ビューア

公開当初から Google Maps API を使用した高精細画像ビューアを用いていたため、Google Maps API の仕様変更が起こるたびそれに対応しなければならなかった。今回、サーバーインストールタイプの高精細画像ビューアに変更することで、安定的な運用を行えるようになる。

次にパソコンで閲覧する場合に、画像の回転が行える機能を追加した。これによって、本データベースの資料では古地図のように多方向に地名が記載されている資料(図3)の可読性が向上する。

これによって図書館以外にも博物館や文書館において普及しているアーカイブスにおいて様々な形状の資料を閲覧する際に汎用的な画像ビューアとなることが期待される。



図3 信濃国全圖

3. おわりに

小谷コレクションは、山岳関係のコレクションとして日本有数のコレクションである。近世日本山岳関係データベースとして江戸期の和古書・和古地図をインターネットにより公開をした後、資料の利用や二次利用の申し込みが増えたことから、学生・研究者をはじめ一般市民の閲覧性や利便性が向上し広範な利用が増えたと想定される。

この高精細画像ビューアの新機能開発・実装により、この分野を学び始めた学生や興味を持つ一般市民の利用者がいつでもどこでも自由に学習して学ぶことのできる開かれたデータベースとして活用されることを期待する。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 26907034 の助成を受けたものです。

¹ <http://moaej.shinshu-u.ac.jp/>

² 小谷コレクションは、旧制松本高等学校 OB の小谷隆一氏から信州大学附属図書館へ平成 14 年度に寄贈された山岳に関する古今東西の図書・雑誌あわせて約 8000 点からなるコレクション。